

共通到達度確認試験試行試験（第2回）学生アンケート結果

問1. 回答者の属性

未修1年	370
未修2年	254
既修2年	476
不明	7

問2. 試行試験を受験した理由（複数回答可）

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア：法科大学院生全体の中での自分の現在の学力を測りたい（力試し）	190 (51.3%)	116 (45.7%)	209 (43.9%)	7
イ：試験の成績によって自身の学修が足りないところを確認し、今後の復習に役立てる	186 (50.3%)	113 (44.5%)	172 (36.1%)	5
ウ：短答式試験の受験に慣れるため	142 (38.4%)	106 (41.7%)	173 (36.3%)	3
エ：大学または教員からの勧めを受けた	161 (43.5%)	104 (40.9%)	173 (36.3%)	2
オ：第1回試行試験を受験した先輩から勧めを受けた	2 (0.5%)	2 (0.8%)	4 (0.8%)	0
カ：周りの学生の多くが受験するため	36 (9.7%)	16 (6.3%)	43 (9.0%)	1
キ：授業の実施時期などとの関係で時間的な余裕があったため	47 (12.7%)	23 (9.1%)	46 (9.7%)	2
ク：その他	38 (10.3%)	26 (10.2%)	80 (16.8%)	0

○「その他」の主な内容

- ・法科大学院の方針で全員受験だった
- ・義務だと思っていた
- ・無料だから

問3. 試行試験受験のために特別な試験対策を行ったか

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア：試験対策を行った	140 (37.8%)	71 (28.0%)	169 (35.5%)	2
イ：試験対策は行わなかった	229 (61.9%)	183 (72.0%)	307 (64.5%)	5

問4. (3. でアと答えた場合) どんな対策を行ったか（複数回答可）

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア：法科大学院の授業の復習	42 (30.0%)	4 (5.6%)	16 (9.5%)	0
イ：基本書や判例百選の読み直し	51 (36.4%)	20 (28.2%)	47 (27.8%)	1
ウ：司法試験の短答式試験の問題を解く	79 (56.4%)	57 (80.3%)	123 (72.8%)	1
エ：予備試験の短答式試験の問題を解く	31 (22.1%)	26 (36.6%)	73 (43.2%)	0
オ：TKCの全国実力確認テストの問題を解く	23 (16.4%)	7 (9.9%)	12 (7.1%)	0
カ：法学検定試験の過去問や法学既修者試験の問題を解く	13 (9.3%)	2 (2.8%)	3 (1.8%)	0
キ：予備校等の短答式試験問題を解く	31 (22.1%)	11 (15.5%)	29 (17.2%)	0
ク：その他	10 (7.1%)	4 (5.6%)	6 (3.6%)	0

○「その他」の主な内容

- ・第1回試行試験問題の確認
- ・その他の短答問題集を解く

問5. (3. でイと答えた場合) 試験対策を行わなかった理由 (複数回答可)

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア: 法科大学院の授業の予習復習で忙しく、時間がとれなかった	54 (23.6%)	44 (24.0%)	43 (14.0%)	4
イ: 法科大学院の期末試験に近接していたため、対策の時間がとれなかった	17 (7.4%)	9 (4.9%)	11 (3.6%)	1
ウ: 法科大学院における学習成果を図る実力試験であるため、特別の対策が必要とは思わなかった。	147 (64.2%)	121 (66.1%)	199 (64.8%)	1
エ: 特別の対策をしなくとも十分な成績が修められると思った	3 (1.3%)	8 (4.4%)	22 (7.2%)	0
オ: その他	47 (20.5%)	37 (20.2%)	70 (22.8%)	1

○「その他」の主な内容

- ・エクスターンシップの時期と重複しており、多忙だった (主に2年次学生)
- ・現時点の正確な実力を測るため
- ・成績評価に関係ないため
- ・司法試験・予備試験対策を優先した (主に2年次学生)
- ・自身の勉強のペースを守るため

問6. 試行試験の難易度について、どのように感じたか

(1) 憲法

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア: 難しかった	69 (18.6%)	56 (22.0%)	65 (13.7%)	3
イ: 適切だった	287 (77.6%)	185 (72.8%)	388 (81.5%)	3
ウ: 易しかった	7 (1.9%)	10 (3.9%)	18 (3.8%)	1

○「難しかった」の主な内容

- ・細かな知識を問われた点
- ・特定分野の問題 (旧憲法下の法令の効力や、統治の分野等)
- ・授業や司法試験の傾向と異なる点 (主に2年次学生)

○「易しかった」の主な内容

- ・正誤式問題という形式では、50%の確率で正答可能であること

(2) 民法

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア: 難しかった	57 (15.4%)	33 (13.0%)	37 (7.8%)	1
イ: 適切だった	279 (75.4%)	193 (76.0%)	386 (81.1%)	4
ウ: 易しかった	15 (4.1%)	17 (6.7%)	29 (6.1%)	1

○「難しかった」の主な内容

- ・まだ学修していない分野から出題された点
- ・細かい知識を問われた点（主に1年次学生）

○「易しかった」の主な内容

- ・正誤式問題という形式では、50%の確率で正答可能であること

(3) 刑法

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア：難しかった	61(16.5%)	26(10.2%)	33(6.9%)	1
イ：適切だった	283(76.5%)	205(80.7%)	375(78.8%)	6
ウ：易しかった	17(4.6%)	18(7.1%)	54(11.3%)	0

○「難しかった」の主な内容

- ・細かい知識を問われた点
- ・思考力を問われる問題

○「易しかった」の主な内容

- ・正誤式問題という形式では、50%の確率で正答可能であること
- ・設問が基礎的な分野・判例・知識にとどまっていた点（主に2年次学生）

問7. 解答時間は十分だったか

(1) 憲法

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア：不足していた	16(4.3%)	9(3.5%)	7(1.5%)	0
イ：適切だった	171(46.2%)	97(38.2%)	146(30.7%)	5
ウ：余った	177(47.8%)	145(57.1%)	320(67.2%)	2

(2) 民法

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア：不足していた	23(6.2%)	7(2.8%)	10(2.1%)	0
イ：適切だった	139(37.6%)	94(37.0%)	139(29.2%)	3
ウ：余った	179(48.4%)	131(51.6%)	283(59.5%)	3

(3) 刑法

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア：不足していた	39(10.5%)	21(8.3%)	34(7.1%)	0
イ：適切だった	213(57.6%)	123(48.4%)	186(39.1%)	5
ウ：余った	109(29.5%)	101(39.8%)	238(50.0%)	2

問8. 今回の試行試験受験について、どのようなメリット・デメリットがあると思うか（複数回答可）

（メリット）

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア：法科大学院での学習が身についているかを確認できる	233 (63.0%)	138 (54.3%)	221 (46.4%)	5
イ：全国の法科大学院生の中で、自身の学修成果がどのレベルにあるかを確認できる	193 (52.2%)	131 (51.6%)	229 (48.1%)	5
ウ：学修が不足していた部分を確認し、今後の学修に活かすことができる	251 (67.8%)	156 (61.4%)	261 (54.8%)	5
エ：模試の代替として受験慣れすることに意義がある	139 (37.6%)	109 (42.9%)	171 (35.9%)	3
オ：その他	5 (1.4%)	4 (1.6%)	7 (1.5%)	0
カ：特にない	23 (6.2%)	24 (9.4%)	41 (8.6%)	0

○「その他」の主な内容

・勉強のペースメーカーになる

・無料で受験できる

（デメリット）

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア：学修リズムや生活リズムが乱されてしまう	72 (19.5%)	45 (17.7%)	89 (18.7%)	0
イ：試験対策の準備が大変	38 (10.3%)	17 (6.7%)	39 (8.2%)	0
ウ：受験しなければならないというプレッシャーを感じてしまう	84 (22.7%)	45 (17.7%)	82 (17.2%)	2
エ：試験を受けること自体が負担になる	94 (25.4%)	83 (32.7%)	190 (39.9%)	1
オ：TKCや予備校などの模試があるため不要	21 (5.7%)	19 (7.5%)	43 (9.0%)	0
カ：その他	25 (6.8%)	19 (7.5%)	47 (9.9%)	2
キ：特にない	147 (39.7%)	101 (39.8%)	155 (32.6%)	4

○「その他」の主な内容

・拘束時間が長い

・司法試験や予備試験と形式・難易度が異なる

・解答解説がすぐに手に入らず、適切な復習ができない

・準備のための負担が増大する

・参加者が少なく、自身の相対的学修到達度の参考にならない

問9. 憲法・民法・刑法に加えて民事訴訟法・刑事訴訟法・商法・行政法が課されるとすると、上記8. の回答に影響するか

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア：影響する	207 (55.9%)	142 (55.9%)	265 (55.7%)	5
イ：影響しない	150 (40.5%)	102 (40.2%)	194 (40.8%)	2

問10. 上記9. において、「ア：影響する」と回答した場合、どのような影響があると考えるか

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア：科目が増えることで、上記8で回答したメリットがより強く享受できる	58 (28.0%)	40 (28.2%)	75 (28.3%)	1
イ：科目が増えることで、上記8で回答したデメリットがより強く生じる	132 (63.8%)	84 (59.2%)	171 (64.5%)	3
ウ：その他	22 (10.6%)	21 (14.8%)	21 (7.9%)	1

○「その他」の主な内容

- ・両面ある
- ・司法試験以外の勉強が必要になる（主に2年次学生）
- ・負担が増大する

問11. 憲法・民法・刑法に加えて、民事訴訟法・刑事訴訟法・商法・行政法を追加することに意味があると考えるか

	未修1年	未修2年	既修2年	不明
ア：意味がある	216 (58.4%)	147 (57.9%)	273 (57.4%)	5
イ：意味が無い	109 (29.5%)	74 (29.1%)	153 (32.1%)	1

問12. その他、共通到達度確認試験の実施に関する意見

○主な意見

- ・試験時間・休憩時間が長すぎる。途中退席を認めるべき。
- ・復習のため、速やかに詳細な解答解説が必要。試験の場で配布するべき。
- ・試験実施の必要性を感じられない。
- ・司法試験に問題形式や難易度を近づけるべき。
- ・受験者数が少なく、試験の意義を感じられない。義務化するなど、受験者を増やす努力をするべき。
- ・進級要件とすることや、義務化は負担増加等の理由から反対。
- ・成績発表と同日である点や、帰省の時期と重なる点、準備期間がとれない点など、日程に難がある。
- ・論文式試験の実施も検討するべき。
- ・これ以上試験を増やすべきではない。
- ・学修の進み具合を確認するため、複数回実施とするべき。
- ・社会人学生に配慮し、平日夜間や土日祝日に実施するべき。
- ・準備を行う上で、情報が不足していた。サンプル問題等を公表するべき。